



# 第42回 観光の実態と志向 結果詳細

令和5年8月4日

公益社団法人日本観光振興協会 総合調査研究所



公益社団法人日本観光振興協会では、過去1年間の国民の国内宿泊観光旅行の実態と今後の希望についての調査である「観光の実態と志向」調査を今年度も実施しました。

今回は「コロナ禍を経てのこれからの観光」をテーマに、特別に調査を行いましたので、主な結果についてご紹介いたします。

なお、本調査の報告書は令和5年9月末ごろ発行予定です。

<お問い合わせ先>

公益社団法人 日本観光振興協会 総合調査研究所  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-1-1 虎の門三丁目ビルディング6階  
TEL : 03-6435-8333 E-mail : soken@nihon-kankou.or.jp

## 1. 国内宿泊観光旅行参加率の変化

- ・令和4年度の国内宿泊観光旅行への参加率は37.8%。コロナ禍前の水準には届かないものの、回復を見せている。
- ・すべての性・年代において前年度よりも参加率が増加している。特に、男女ともに10代の増加幅が大きい。

## 2. 国内宿泊観光旅行参加希望率の変化

- ・今後1年間の国内宿泊観光旅行への参加希望率は61.7%で前回よりも増加。
- ・すべての性・年代において前年度よりも参加希望率が増加。参加率と同様に、10代の増加幅が特に大きい。

## 3. コロナ禍での旅行に対する思いの変化

- ・約3割が、コロナ禍を通して、旅行により行きたくなかったと回答。
- ・旅行がきらい・どちらでもない層では、旅行への関心が低下した人がやや多い。

## 4. 旅行先での非対面型サービスの利用意向

- ・チケットの購入等、単純なやりとりしか発生しない場面においては、非対面型サービスの利用を希望する割合が比較的高い。
- ・非対面型サービスの利用意向においては、年代による差が顕著である。

## 5. 旅行先での地元の方との交流意向

- ・直接現地で地元の方から地元の情報を知りたいという人が比較的多い。
- ・男女とも10代は、非対面型サービスの利用を望む一方で、旅行先での地元の方との交流意向も高い。

## 6. 居住都道府県内の宿泊観光旅行の実態と志向

- ・コロナ禍において居住都道府県内での宿泊観光旅行をした人は全体で約3割。
- ・北海道は、コロナ禍での居住都道府県内での宿泊観光旅行参加率、今後の参加希望率ともに47都道府県の中でトップである。

# 1. 国内宿泊観光旅行参加率の変化

令和4年度(令和4年4月～令和5年3月)の国内宿泊観光旅行への参加率は全体で37.8%と、前年度よりも9.2pt増加した。新型コロナウイルス感染症の影響により、参加率は令和2年度、3年度と大きく落ち込んでいたが、令和4年度は、外出自粛を求める措置が実施されなかったこともあり、コロナ禍前の水準までは届かないものの、回復を見せている。性別にみると、男性は8.9pt、女性は9.4pt、前年度よりも増加しており、性別による参加率の差がやや縮まる結果となった。

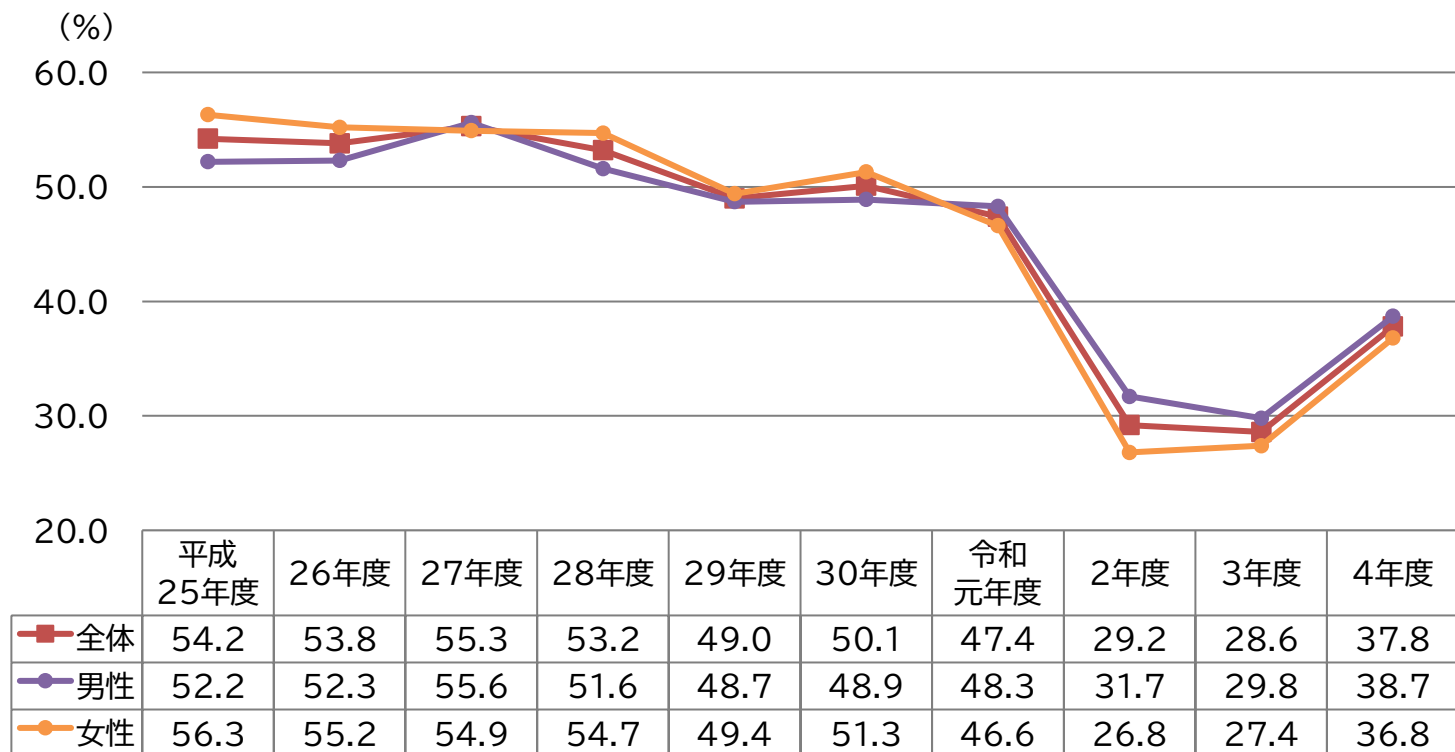


図1 国内宿泊観光旅行の参加率の推移

# 1. 国内宿泊観光旅行参加率の変化

性・年代別で国内宿泊観光旅行の参加率の推移をみると・・・

- ・すべての性・年代において前年度よりも参加率が増加
- ・男女15-19歳、男性50代、女性30代では、10pt以上参加率が増加している
- ・女性20代では、参加率が50%に達しており、すべての性・年代の中で最も高い

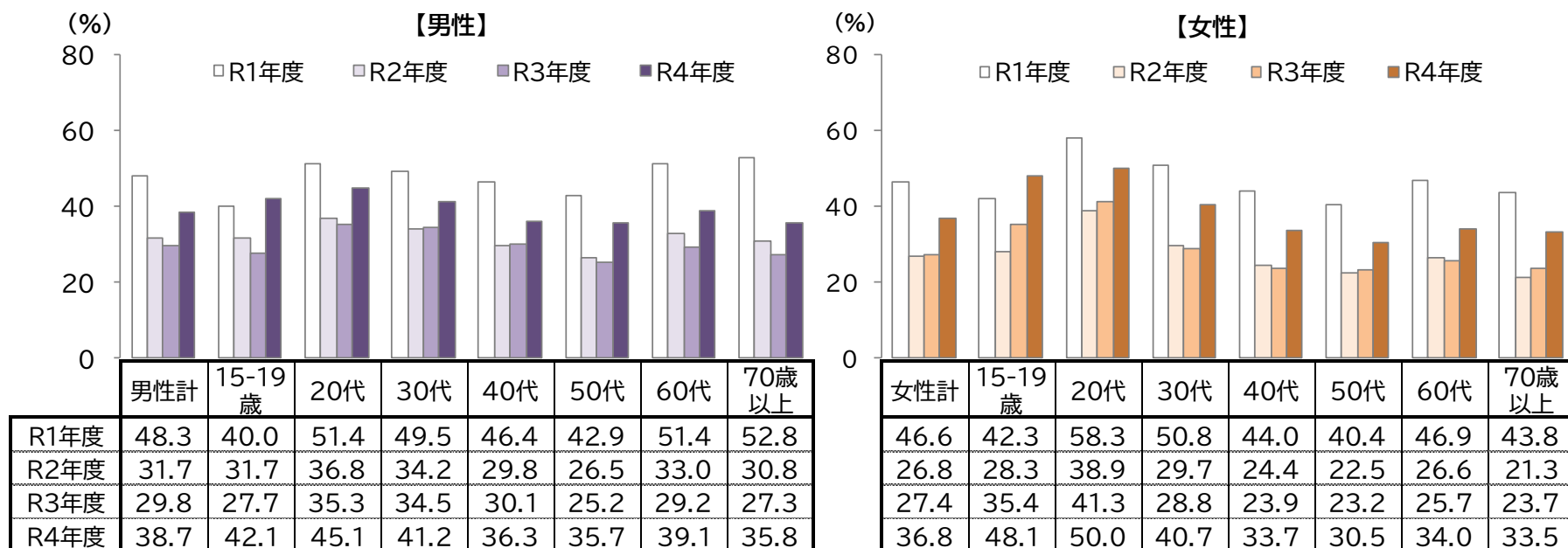


図 2 国内宿泊観光旅行の参加率の推移(性・年代別)

## 2. 国内宿泊観光旅行参加希望率の変化



今後1年間の国内宿泊観光旅行への参加希望率は61.7%で、前回よりも3.0pt増加した。令和3年度から引き続き増加傾向にあり、コロナ禍での落ち込みからの回復を示す結果となっている。しかし、令和4年度の実態(9.2pt増加)に比べると、ゆるやかな増加となっており、国内宿泊観光旅行自体の需要規模が小さくなっている可能性が示唆される。

参加希望率については、男性では2.7pt、女性では3.4pt前回よりも増加しており、性別による参加希望率の差がさらに縮まる結果となった。

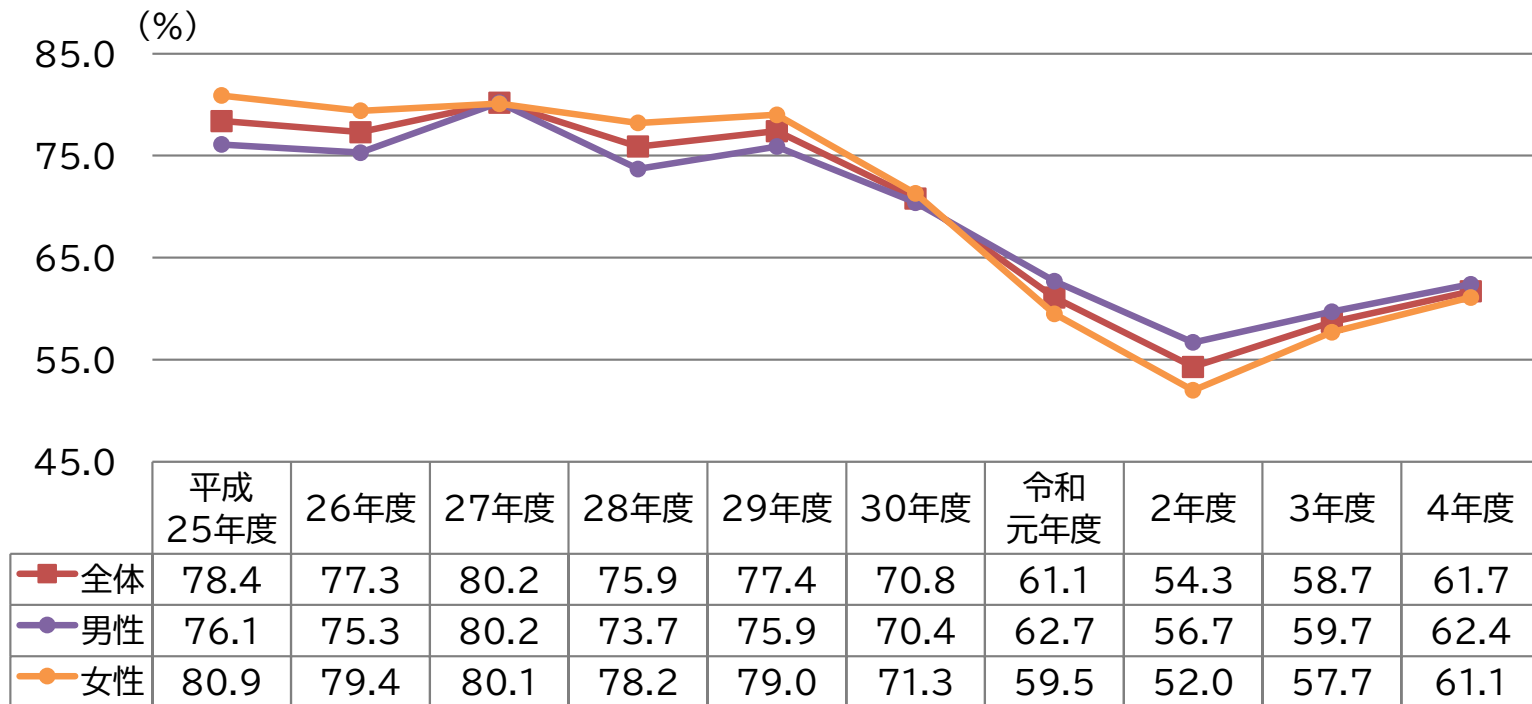


図3 国内宿泊観光旅行の参加希望率の推移

## 2. 国内宿泊観光旅行参加希望率の変化

性・年代別で国内宿泊観光旅行の参加希望率の推移をみると・・・

- ・すべての性・年代において前年度よりも参加希望率が増加
- ・男女15-19歳、女性70歳以上では、7pt以上参加率が増加している
- ・男女ともに、若年層と高齢層の参加希望率が高く、中間層ではやや低い傾向にある

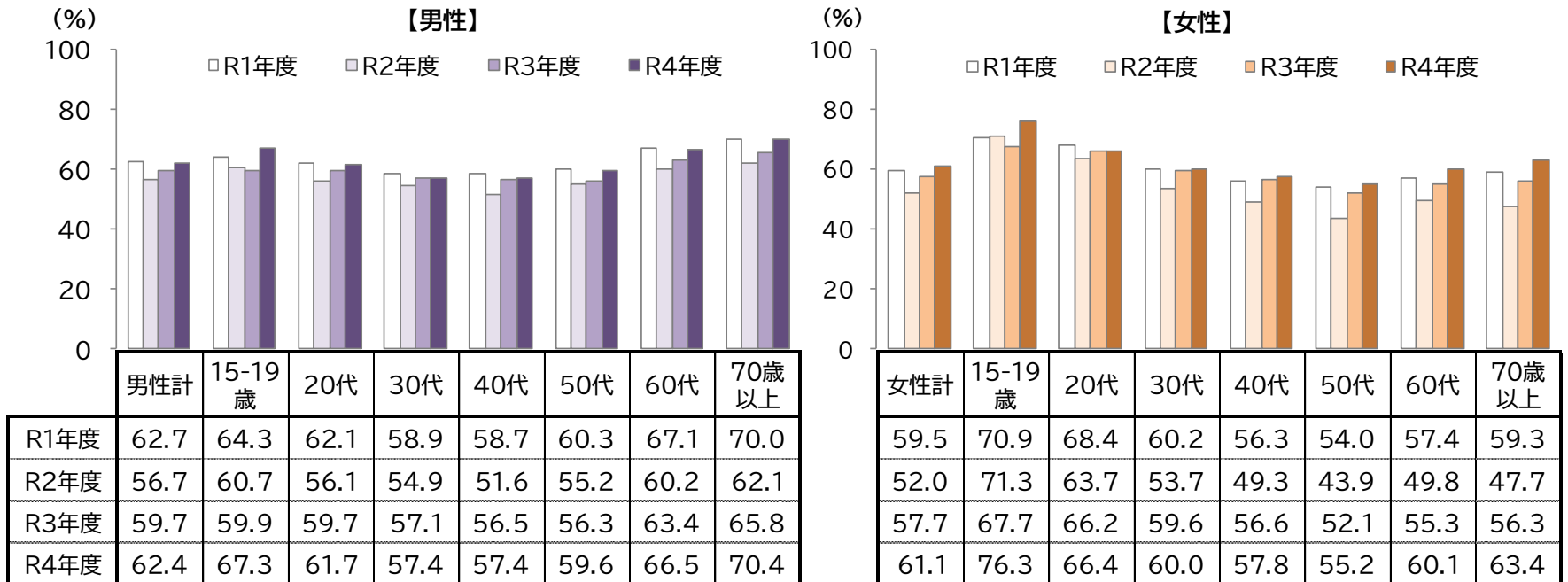


図4 国内宿泊観光旅行の参加希望率の推移(性・年代別)



### 3. コロナ禍での旅行に対する思いの変化

2020年からの3年間、コロナ禍において移動が制限されてきた中で、旅行に対する思いの変化や気づきがあったか尋ねたところ、全体では、「特に変わらない」が47.5%で最も多かったものの、半数以上は何らかの変化があったと回答した。その中で最も多いのは「今まで以上に旅行に行きたくなった」で27.2%となっている。一方で、旅行が自由に行けない状態を経験する中で、「自分の生活の中に旅行は特に必要ないと感じた」という人も7.4%いることが分かった。

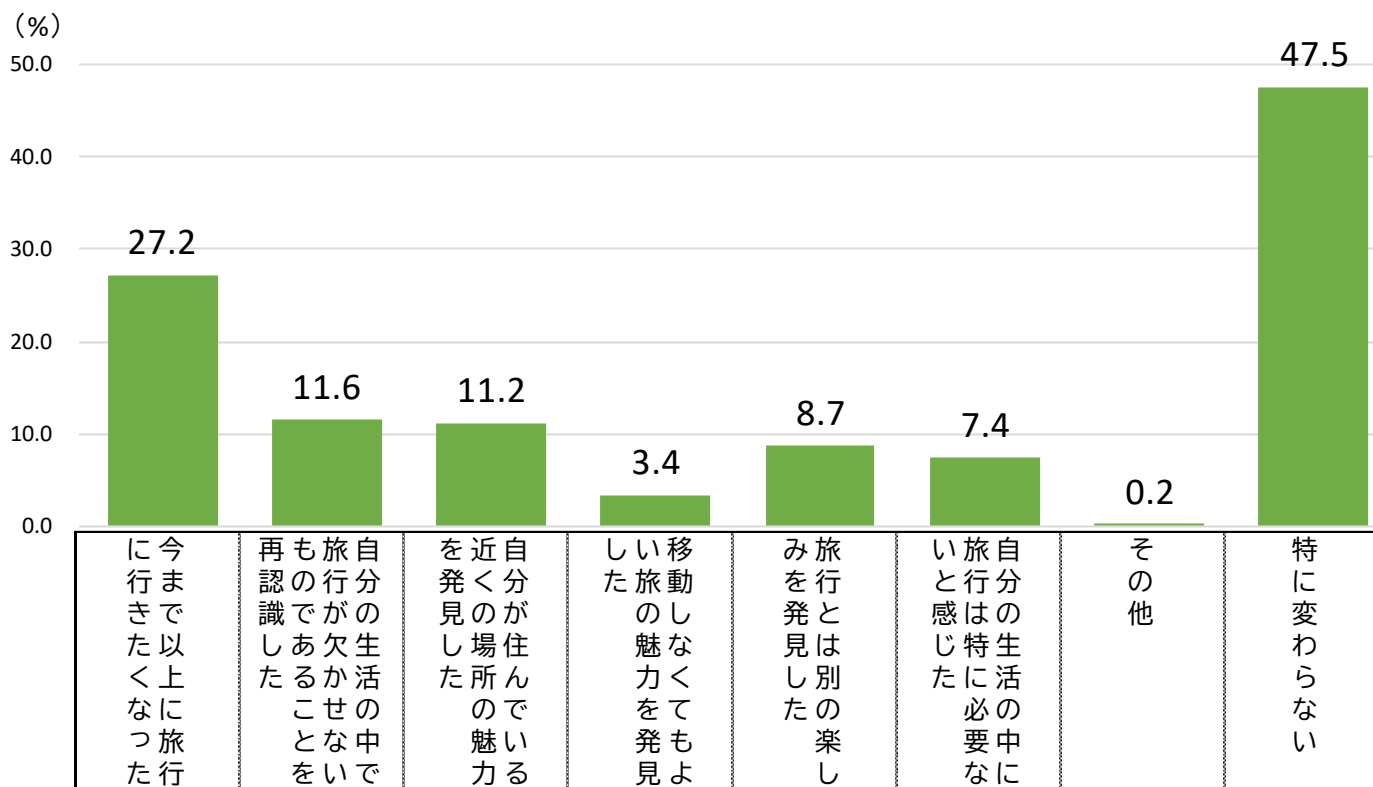


図5 コロナ禍での観光旅行に対する思いの変化(複数回答)(n=20,000)

### 3. コロナ禍での旅行に対する思いの変化

「旅行に対する好み」別に、コロナ禍での旅行に対する思いの変化をみると・・・

#### 【旅行が好きな層】

- ・「今まで以上に旅行に行きたくなくなった」が39.5%で最も多い
- ・「自分の生活の中で旅行が欠かせないものであることを再認識した」も17.0%  
→もともと旅行が好きな人は、一時的に旅行が制限されたことで、自分の生活における旅行の必要性・重要性を改めて感じている

#### 【旅行がきらい・どちらともいえない層】

- ・過半数が「特に変わらない」→もともと興味が薄いため変化がない場合が多い
- ・旅行に対しポジティブな変化があった割合は低く、旅行への関心が下がった人が比較的多い

			今 行ま きで た以 く上 な つ旅 た行	再 も認 識し た	自 分の 行か るこ とな をい	近 く分 見の し場 た所 ので 魅力 力る	しい た旅 移動 のし 魅力 なく をて 発見 見よ	み旅 行と 発見 し別 たの 楽し	い旅 自 と行 感分 じは たの 生特 活の 必中 要に	そ の 他	特 に 変 わ ら ない
全体	(n=20,000)		27.2	11.6	11.2	3.4	8.7	7.4	0.2	47.5	(%)
旅行 の好 みに 対 す	好き	(n=12,751)	39.5	17.0	14.7	4.2	9.8	2.7	0.3	35.2	
	きらい	(n=1,351)	4.3	2.7	2.2	1.3	2.5	22.3	0.0	67.9	
	どちらともいえない	(n=5,479)	5.8	1.9	6.1	2.2	8.0	14.6	0.1	68.2	
	わからない	(n=419)	5.3	0.7	1.9	1.7	4.3	7.2	0.0	83.1	

図 6 旅行に対する好み別 コロナ禍での観光旅行に対する思いの変化(複数回答)

# 4. 旅行先での非対面型サービスの利用意向



コロナ禍で、感染症対策の面から、様々な非対面型サービスの導入が進んだ。そこで、旅行中の10個の場面を想定し、それぞれにおける「非対面型サービス(直接人と関わらない方法)」の利用意向を調査した。

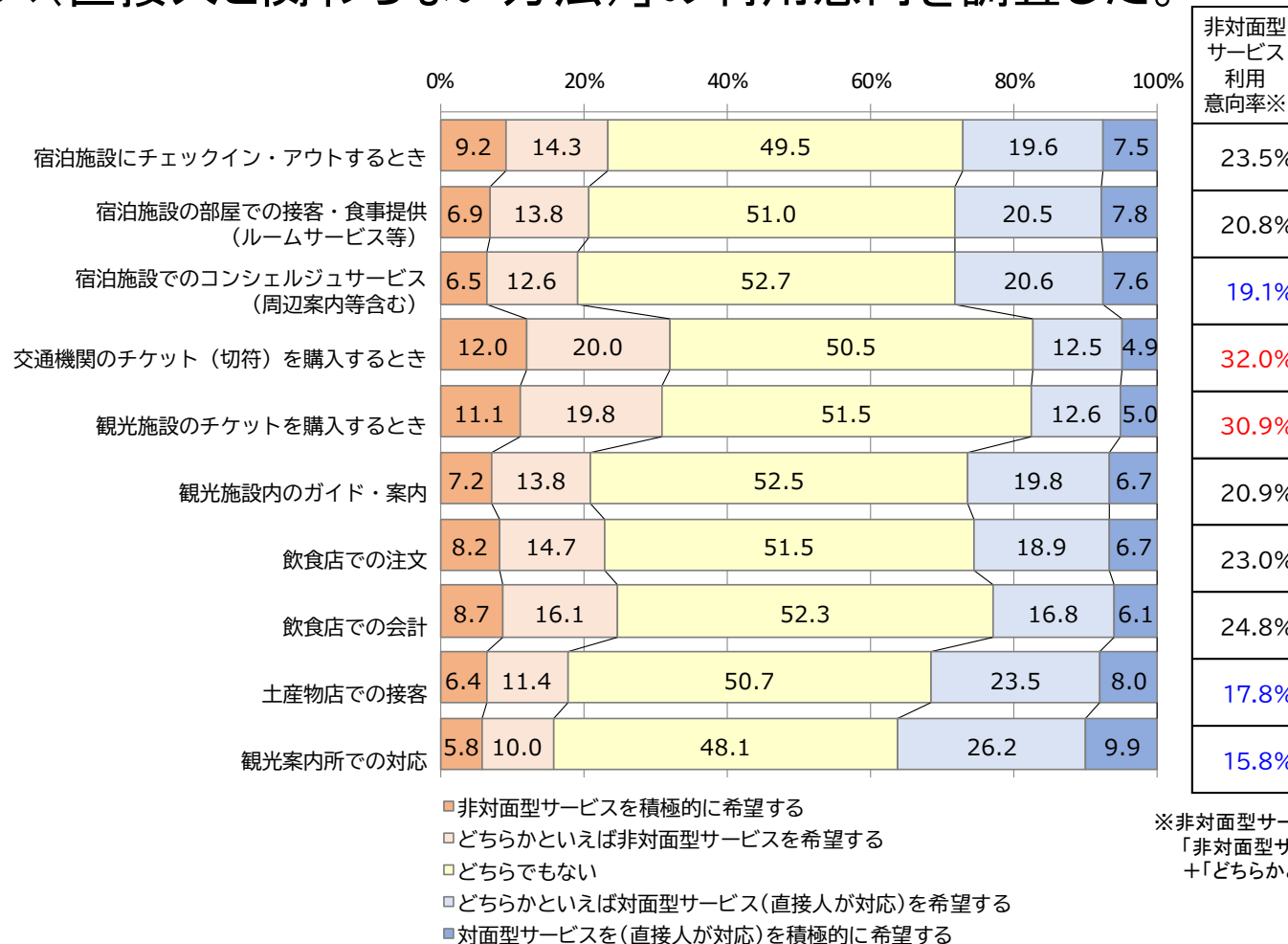


図 7 各場面における非対面型サービスの利用意向(n=20,000)

## 4. 旅行先での非対面型サービスの利用意向



(前頁の図7について・・・)

・10項目のうち、「交通機関のチケット(切符)を購入するとき」と「観光施設のチケットを購入するとき」の2項目において、非対面型サービスの利用意向が30%以上と比較的高くなっている。

→この2項目においては、すでに非対面型サービスの導入が進んでいるケースが多く、基本的には「既定の金額を支払う⇒チケットを受け取る」というやりとりしか発生しないため、非対面型サービスの利用意向が高いと考えられる

・上記2項目と「飲食店での会計」を除いた7項目においては、「どちらかといえば非対面型サービスを希望する」と「対面型サービスを積極的に希望する」の合計値の方が大きく、特に「土産物店での接客」と「観光案内所での対応」において、その割合が30%以上と高い。

→やりとりの内容が複数パターン想定される、きめ細やかな対応を求める場面においては、直接人に対応してもらいたいという希望が多くなっている

# 4. 旅行先での非対面型サービスの利用意向



性・年代別にみると、男女とも10～20代の若い世代において、項目にかかわらず非対面型サービスの利用意向が高く、60代以上において低い傾向にある。特に属性による差が大きい項目は、「飲食店での注文(最大:女性10代41.2%、最小:男性70代以上11.3%)」、「宿泊施設にチェックイン・アウトするとき(最大:女性20代39.4%、最小:男性70代以上11.1%)」である。

		宿泊施設にチェックイン	客泊サービス等(レストラン、ホテル、接客)	案内等含む(案内、案内、案内)	宿泊施設でのスコア(周辺)	交通機関のチケット	観光施設のチケット	観光施設内のガイド	飲食店での注文	飲食店での会計	土産物店での接客	観光案内所での対応	該当なし
全体	(n=20,000)	23.5	20.8	19.1	32.0	30.9	20.9	23.0	24.8	17.8	15.8	53.5	(%)
性・年代	男性計	(n=9,916)	22.8	19.4	18.1	30.1	28.5	19.8	20.9	22.8	16.9	15.5	54.7
	10代	(n=599)	38.4	26.7	28.0	41.2	39.4	27.0	34.6	36.2	25.2	24.2	36.4
	20代	(n=1,205)	33.1	28.8	25.9	36.3	35.3	26.6	29.5	31.4	24.5	23.2	45.7
	30代	(n=1,420)	30.8	25.9	22.9	36.2	33.7	24.4	28.2	28.5	23.7	20.4	47.3
	40代	(n=1,881)	24.1	19.8	17.8	30.5	28.6	20.9	21.5	23.2	17.1	16.1	54.4
	50代	(n=1,698)	19.5	15.8	14.5	26.3	25.1	16.5	17.3	19.2	13.7	13.3	60.4
	60代	(n=1,569)	14.9	14.0	13.6	25.8	24.0	15.5	14.9	17.5	11.7	11.0	61.2
	70代以上	(n=1,544)	11.1	12.3	12.9	23.6	22.2	14.4	11.3	14.6	9.8	8.2	63.1
	女性合計	(n=10,084)	24.2	22.1	20.1	33.9	33.4	22.0	25.0	26.7	18.8	16.0	52.2
	10代	(n=570)	37.4	31.8	28.4	45.8	42.6	28.9	41.2	38.2	28.6	24.6	38.2
	20代	(n=1,171)	39.4	32.9	30.4	47.5	44.2	30.5	37.4	38.6	29.8	25.8	38.4
	30代	(n=1,374)	30.7	25.0	22.6	39.3	37.9	25.0	31.1	32.0	24.0	19.9	47.5
	40代	(n=1,829)	27.1	22.9	20.7	35.6	35.9	23.5	26.0	27.7	19.4	16.3	50.0
	50代	(n=1,688)	21.1	19.8	18.1	30.6	30.5	19.7	20.8	22.5	15.4	13.9	56.4
60代	(n=1,641)	17.2	17.6	16.1	27.9	27.2	18.8	18.2	21.3	13.7	11.7	59.4	
70代以上	(n=1,811)	11.5	15.5	13.8	23.9	25.6	15.5	16.2	19.1	11.5	9.8	61.0	

図 8 性・年代別の各場面における非対面型サービスの利用意向

# 5. 旅行先での地元の方との交流意向

人との直接的な交流が制限される日々が続いたコロナ禍を経て、現在、旅行先において、どの程度地元の方との交流を求めているのかを調査した。すべての項目において、「大変そう思う」の割合は低く、1割に満たない結果となっている。旅行先での交流意向率をみると、「飲食店や土産物店など地元店員から地域のおすすめ情報を聞きたい」において、37.5%と比較的高くなっている。昨今、おすすめ情報は、ネット検索やSNS等で容易に閲覧できるが、直接現地で地元の方に聞きたいという意向が高いことが分かった。

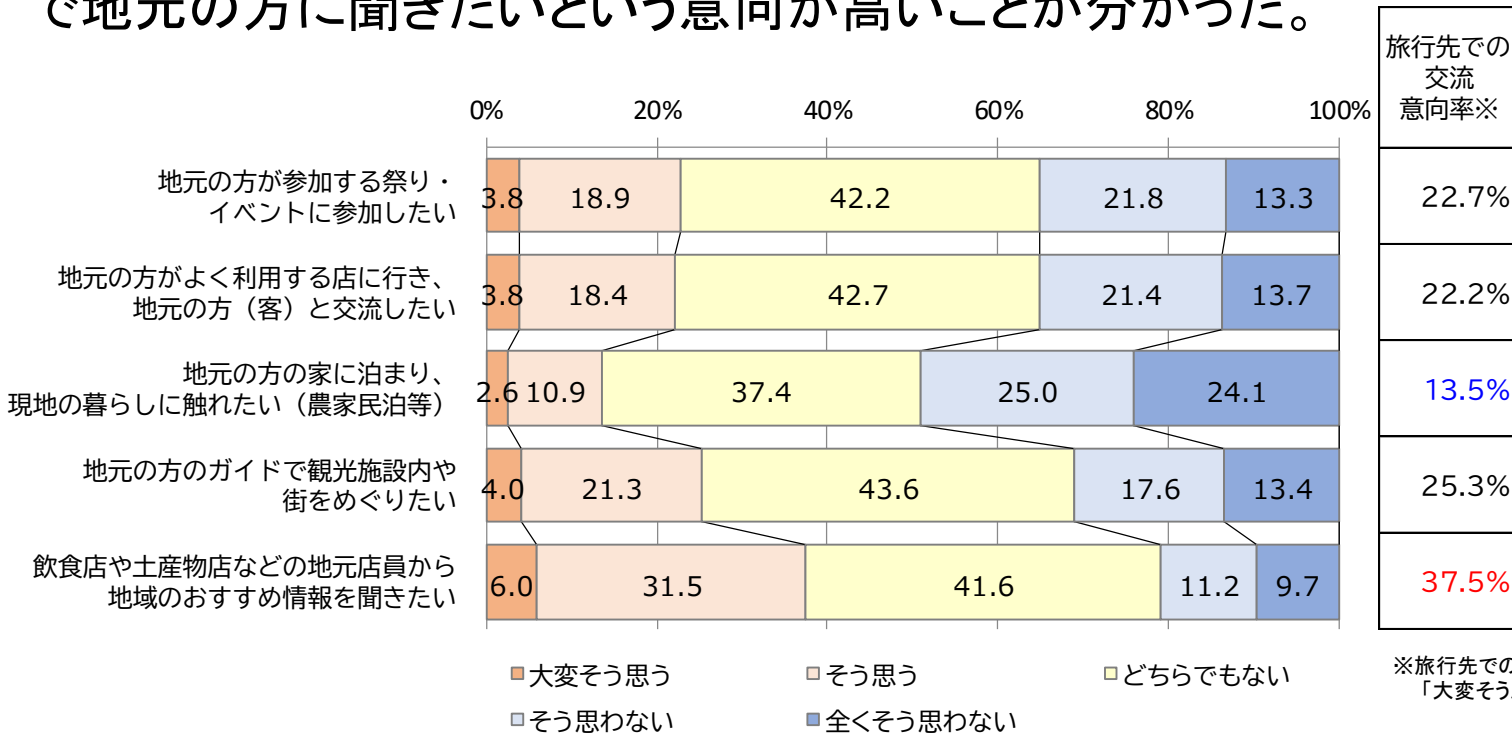


図 9 旅行先における地元の方との交流意向(n=20,000)

## 5. 旅行先での地元の方との交流意向



非対面型サービスの利用意向と旅行先での地元の方との交流意向の関係を性・年代別に表したところ、年代によって、ばらつきがみられた。特に興味深いのが、10代の結果である。男女ともに10代においては、非対面型サービスの利用意向が高い一方で(人と直接的に関わりたくない)、地元の方との交流意向も高くなっている(人と積極的に関わりたい)。機械での代替対応が可能な場面においては、機械の利用を望むが、人との交流そのものが目的となる場面においては、積極的な交流を望んでいる人が多いと考えられる。

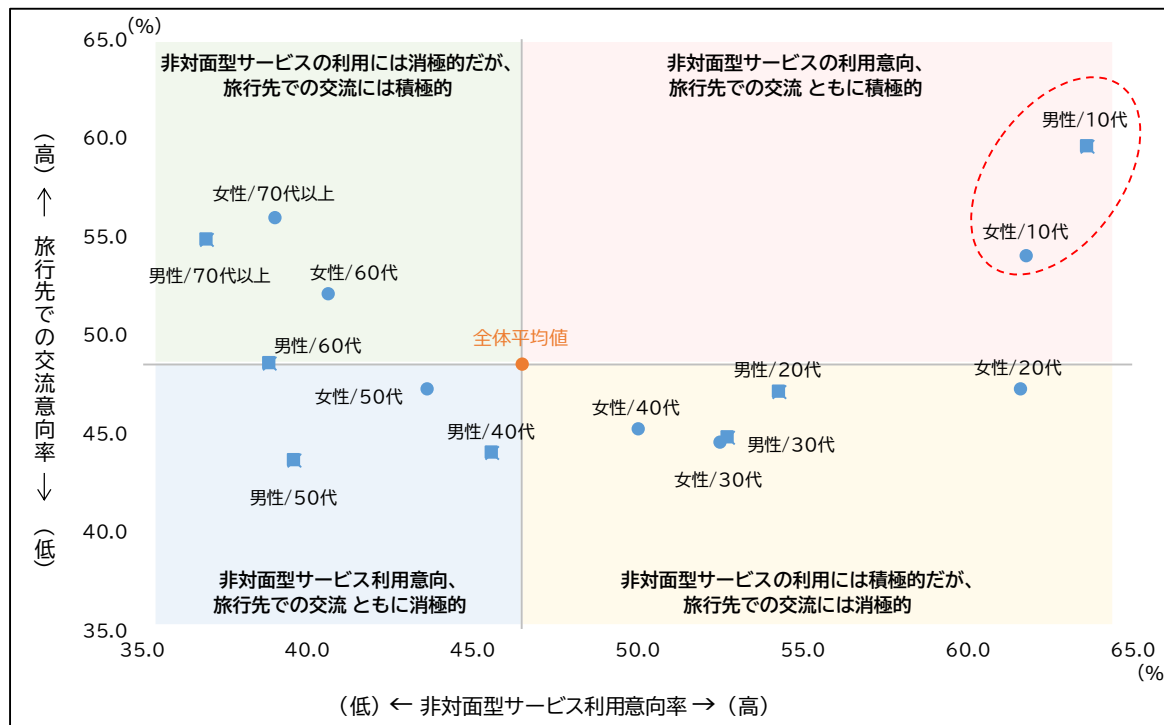


図 10 性・年代別非対面型サービスの利用意向×旅行先における地元の方との交流意向

## 6. 居住都道府県内の宿泊観光旅行の実態と志向



2020年以降(コロナ禍)に、居住都道府県内において宿泊を伴う観光旅行をしたことがあるか尋ねたところ、全体では28.7%が「あり」と回答した。コロナ禍で、旅行の目的地として居住都道府県を選んだ理由としては、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、居住都道府県外への移動がはばかれたから」が4割以上となっている。47都道府県の中で、「あり」の回答率が高い5県を抽出したところ、最も参加率が高いのは北海道で、43.0%であった。

一方で、今後、居住都道府県内での宿泊旅行に行きたいか尋ねると、全体で36.1%が希望する結果となった。こちらにおいても、希望率トップは北海道であり、6割以上が希望している。北海道、長野県、福島県は参加率と希望率ともにトップ5にランクインしている。

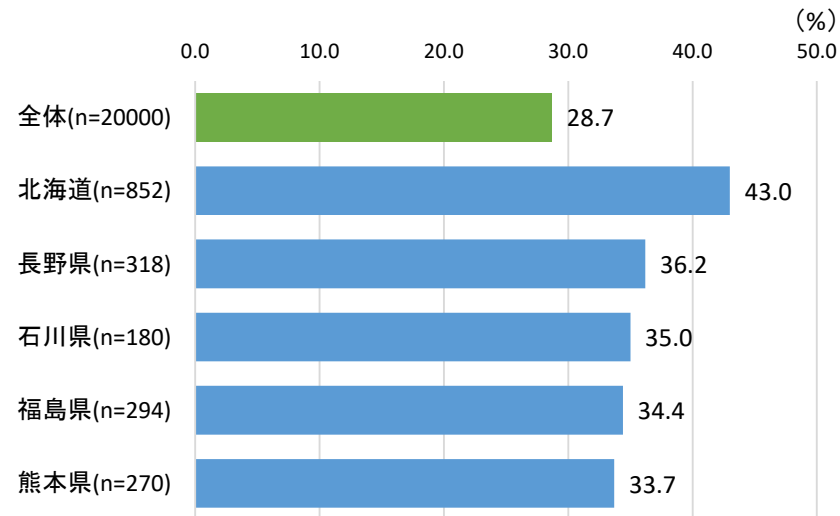


図 11 居住都道府県内での宿泊観光旅行参加率【2020年以降】トップ5

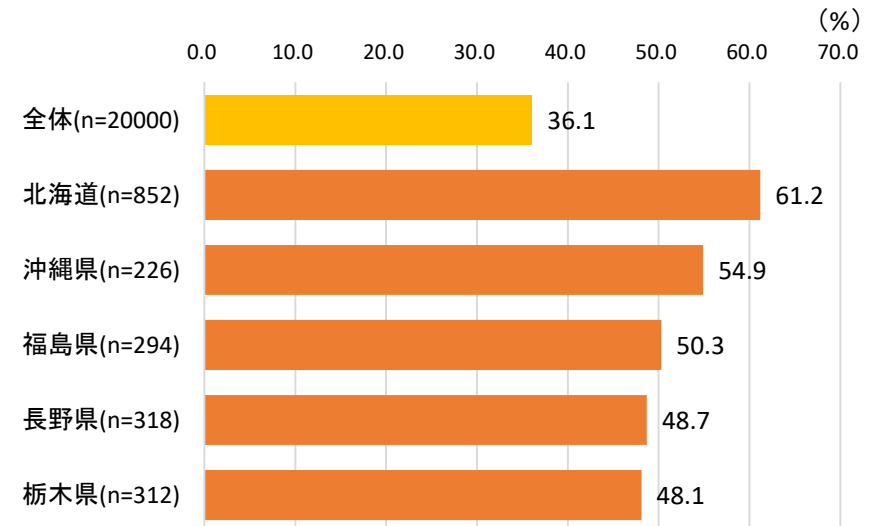


図 12 居住都道府県内での宿泊観光旅行への参加希望率トップ5



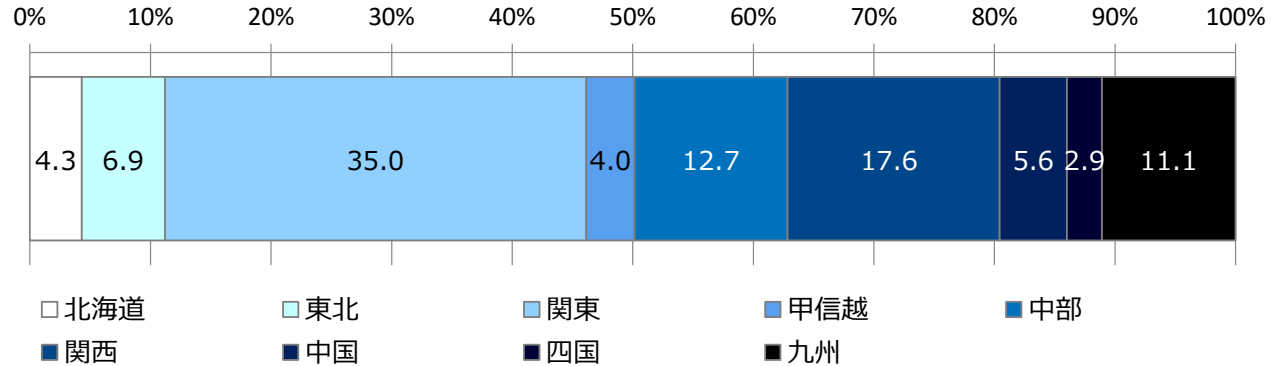
1. 調査目的: 国民の観光旅行の動向を明らかにし、諸施策を推進するための基礎資料の作成を目的とする。
2. 調査項目: (1)過去1年間(令和4年4月～令和5年3月)の国内宿泊旅行の概要  
(2)過去1年間の国内宿泊観光旅行  
(3)今後の観光旅行の志向  
(4)その他
3. 調査設計: (1)対象地域 全国(47都道府県)  
(2)調査対象 インターネットモニター  
(3)対象者条件 15歳以上の男女個人  
(4)設計標本数 20,000  
(5)標本抽出方法 都道府県別、性年代別人口構成比に準拠して割付  
(令和2年国勢調査結果を使用)  
(6)調査方法 インターネット調査  
(7)調査時期 令和5年4月28日～5月9日
4. 調査担当: 株式会社サーベイリサーチセンター
5. 回収結果: 有効回収数 20,000

# 第42回 観光の実態と志向 調査概要

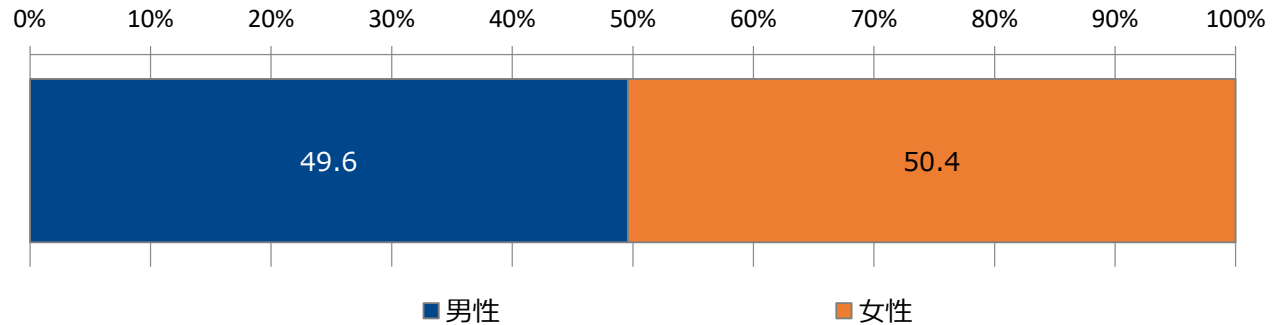


## 【回答者プロフィール】

居住地域  
(n=20,000)



性別  
(n=20,000)



年代  
(n=20,000)

